

るーぷる

ふゆごう
冬号

いあごわし

るーぷるセンター長

駒山博人

新しい年が明ける前から、新聞やテレビで「戦後70年」という言葉を見たり聞いたりします。この70年の間に、日本の「福祉」の考え方や制度などは大きく変化しました。

かつては、困った人がいたらご近所同士で助け合うのは当たり前でしたが、今はどうでしょうか。生活全般を細かく分けられて、それぞれの分野ごとに多くの人がたずさわり、私たちの周りは専門家で溢れています。

そして、自分らしい日常生活を送るために福祉サービスを利用するには、専門家の世話になるということがなりました。

福祉サービスの利用者は、専門家の肩書きやその人がかもし出

す雰囲気(オーラ)、上から目線などに、ある人はビクビクしながら、まだある人はうっとうしさや面倒くささを感じながら「はい」「わかりました」とうなずいたりサインをしたり・・・。福祉の法律や制度が70年前には考えられないほど出来て、私たちの暮らしは良くなっているけれども、自己実現できない人は減っていないんじゃないでしょうか。「自分らしい暮らし」を、私の「余計なお世話が邪魔しないよう気をつけます。」



今年の抱負
利用者さんや職員さんに
聞いてみました！

植木のもりに毎日通えるように頑張ります。

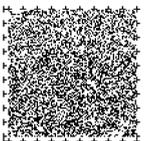
おともだちにいっぱいおてがみをか。

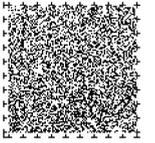
病気になるったりしないように健康に気をつけます。

ステップアップと親孝行をします。

健康第一で仲間とともに日々を楽しみます。

くじけないで仕事が出来るように頑張りたいです。





素敵な出会いをた
くさんしたいなあ

整理整頓を心掛けて、無駄遣いを慎みたいと思います。

時間を有効に使い、実りある一日を過ごしたいと思います。

バリアフリーな未来へチャレンジ！

一日一日を慌てずに一歩ずつ踏みしめて前向きに歩いて行く。

ひじ年、いろんな抱負が出ましたがみなさんは、どんな一年にしたいですか？

ちよじこと おしゃべりタイム



安部佳代子

先日、テレビドラマの中で身障者用駐車スペースのことに触れたシーンがありました。

バリアフリーということが当たり前のような今、そのドラマの中では「何故、広いスペースが必要か」として、それは車イスでは車のドアを全開しないと降りが出来ない」ということを説明しているシーンとなっていました。何故、必要かということがとてもよくわかるシーンになっているなと感じ、少し嬉しくなりました。

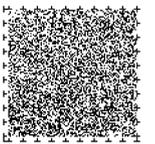
身障者用駐車スペースが車イス常用者にとって必要なのは今では当たり前のようにわかっていることでしょう。

では何故、そのスペースが必要なのかということ、駐車場を使うだけの方が理解されているのでしょうか。

実際、まだまだそこまで理解されている人は少ないのではないのでしょうか。車イス体験を学校の授業でやっている子供達のほうが良くわかっているんじゃないでしょうか。

私たち当事者は幾度となく身障者用駐車場利用についてのピラ配り等の啓発活動してきました。駐車場のことも含め身障者が当事者のことをわかってもらうための啓発活動がバリアフリーな面を増やしてきたと言っても過言ではないでしょう！

それでもより深く身障者のことを理解できているとはまだまだ言えないのではないのでしょうか。理解してもらうためには当事者



ももっと理解してもらうための啓発活動はずっと続けていかなければならないでしょう！

お互いがお互いを分かり合えるようになる努力をお互いが続けていくことはまだまだ必要なことでしょ。

いつの日か、あのドラマのシーンのように身障者や健常者という垣根なく、互い当たり前にお互いがお互いを思い合える日々が続くことがごくごく普通に来ることを待ち望みながら、理解し合える努力もつつ、今の自分が精一杯できることがある日々へと戻ることにしましょ、では、また…。



お知らせ

★お詫び

広報誌るーぶるは今回で2回目の発行となり、早8年、編集委員さんも通算で1名を超えました。しかし、なかなか掲載記事が集まりず毎号苦戦をしています。

そんな中で、昨年発行予定の32号が編集委員さんたちの体調不良も重なり発行できませんでした。毎回楽しみに待っていて下さる方から「まだですかあ?」と、お電話をいただきました。

うれしい悲鳴を上げつつ、今後このような事態にならないようにしたいと思えます。

★原稿募集

次回は5月発行です。原稿の締め切りは3月末。紙面の都合で1、2000文字以内。

あなたの思いの文章や詩、イラスト、写真などに込めて。また友達募集やサークル活動案内など。

★編集委員さんが

たりません

どなたか広報誌作りのお手伝いをして下さる方はいらっしやいませんか?!

現在は、4人体制で作っていますが、1人が休務中ですので実質3人です。そして女性ばかり、おまけにちょっと高齢化しています。

若い方の(私たちより)クリアな頭で、もっと斬新な誌面作りができればと思っています。

- ・年4回発行
 - ・毎月1回の編集会議。
 - ・交通費支給。
 - ・資格も、特技も必要ありませんが、真面目なことが条件です。
- よろしくお願ひします。

おもうこと



後藤美津枝

二年前病気になって以来、免疫力が低下していた私は気をつけてはいたのですが、肺炎になり入院することになりました。そんな時、犬の華との二人暮らしは困ります。でも、幸せなことに本当に困った時必ず助けてくれる友人たちがいます。

今回も一番気がかりだった華を快く預かってくれた人がいました。華は人が大好きで、だれからも可愛がられる子です。人間も犬も同じ。得な性格だと思えます。

四十日間もの長い間お世話になりましたが、時々電話で様子を知らせてくださいました。本当に可愛がっていただいたようです。まるで、そこが我が家のようにてっかい顔

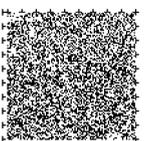
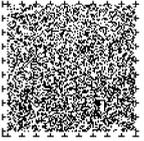
をしている華の姿が目に見えるようでした。

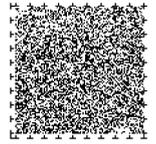
今回もたくさんの人たちに助けられました。一人だけど独りではないと思えました。人は独りでは生きられません。

「時にはくたびれて、立ち止まることもあるだろう。大きく深呼吸して、また歩き出せばいい。私たちはいつでも「一緒」との励ましの言葉は、私の心の奥深くに染み入りました。気づかってくれた人たちに感謝しながら、一人でも大丈夫だと、幸せをかみしめている今日この頃です。

昨年一月、この一年はたくさんの人に心から「ありがとう」を言えるよう、言っていただけのような生き方をしたい。もし

「ありがとう」を一本の花にできたら、両手いっぱいの花束ができるのではと思ったのですが、本当に両手から「ありがとう」の美し





編集後記

い花が霈れ落ちそう
です。

暖冬の予報は大きく外れて昨年末から寒い日が続きました。そのせいかインフルエンザも年頭から猛威をふるっています。皆さん、体調を崩されいませんか？

るーぷるの2014年は、慌ただしく過ぎていきました。

国の方針で障害福祉サービスの利用者は全て計画相談支援のサービス等利用計画作成が必要であり、その最終期限が2015年3月末までとなっていたので、2市2町のサービス利用者の方の計画を作成しなくてはならず、てんやわんやの毎日です。

そのようなこともあり、7番地の利用者さんとゆっくりと関わる時間が持てず淋しい思いをしています。

2015年はこれまで通り、いえ、これまで以上に7番地の利用者さんと心を通い合わせられる時間がたくさん持てるように努力していきたいと思っています。
今年もよろしくお願い致します。

るーぷる 業務案内

相談窓口・・・火～土 8:30～17:00 来所・電話・FAX・Eメールにて、生活全般に関する相談を受けています。

交流広場7番地・・・火～土 8:30～17:00 どなたでも気軽に立ち寄れるフリースペースです。ご自由におくつろぎください。お茶、電子レンジ、パソコン（インターネット）などが無料で利用できます。

サービス等利用計画作成・・・障害福祉サービス（障害者総合支援法に定められたもの）を利用中または利用予定の方の相談を受け、利用計画を作成するなどして福祉サービス利用を継続的に支援します。

成年後見制度利用支援事業・・・精神上的の障害により判断能力が不十分な場合（知的障害や精神障害のある方）に、本人を法的に保護し、支えるための制度です。

虐待防止センター・・・虐待に関する相談を虐待専用電話にて24時間対応します。
(080-6424-2271)

広報誌るーぷる・・・年4回発行予定。ご自宅への郵送もいたします。視覚障害者向けに点字版・カセットテープ版・SPコード版があります。読者投稿は随時受付中です。

るーぷる No. 32 発行・編集／障害者相談支援センターるーぷる〔広報誌るーぷる編集事務局〕

TEL: 0949-25-7010 FAX: 0949-22-6088

E-mail: s-life-support-c@tempo.ocn.ne.jp

